






## 審査結果の要旨

報告番号	甲 第 1299 号	氏名	國武 照代
審査担当者	主査	古川 恭治	
	副主査	吉星 滋幸	
	副主査	井川 亨	
主論文題目： Risk factors for lower limb lymphedema in gynecologic cancer patients after initial treatment (初回治療後の婦人科悪性腫瘍患者の下肢リンパ浮腫発症のリスク因子)			

### 審査結果の要旨 (意見)



本研究は、婦人科系がん治療患者の下肢リンパ浮腫発症に関連するリスク因子を検討することを主目的としている。検討したリスク因子候補の間に観察された複雑な相関構造に対し、構造方程式モデリングを適用して、因子間の因果関係を考慮した疾患予測モデルの開発を試みている。このようなネットワーク構造を持つ統計モデリングを用いることにより、対象疾患の発症に直接影響する因子と間接的に影響を与える因子を区別することが可能となり、新たな臨床的知見が得られ、患者の予後や生活の質の向上につながると考えられる。本論文の結果や内容は、博士号に相当する価値を有すると評価できる。



### 論文要旨

婦人科悪性腫瘍患者の下肢リンパ浮腫のリスク因子に関するほとんどの研究は、術後の患者を対象として実施されている。この研究の目的は、初回治療を受けた婦人科がん患者における下肢リンパ浮腫の発症のリスク因子を評価することである。

2013年1月1日から2015年12月31日の間において久留米大学病院で初回治療を受けた903人の婦人科癌患者に対し後ろ向きコホート研究を行った。最終的に356人の患者を2017年12月31日まで追跡し、解析を行った。統計モデルには離散生存時間モデルを構築し、ハザード比を推定するためにC-log logリンクモデルをあてはめ、リスク因子間の関連は一般化構造方程式モデルを使用して推定した。54人の患者(15.2%)が下肢リンパ浮腫を発症し追跡期間の中央値は1083日(範囲:3-1819日)、発症期間の中央値は240日(範囲:3-1415日)であった。これら54人の患者の38.9%が6ヶ月以内に下肢リンパ浮腫を発症し、2年以内に85.2%が発症した。本研究ではリスク因子はFIGO進行期分類、放射線療法、およびリンパ節切除数(≥28)であった。一般化構造方程式モデルを使用した臨床モデルを臨床使用することで患者の生活の質の向上につながると考える。